

# 枚方市京阪沿線（枚方市駅以南）まちづくり構想

平成 20 年（2008 年）3 月

枚 方 市

## 目次

1. 構想策定の目的	1
2. 地域の概況	2
3. まちづくりの課題	4
4. まちづくり構想	6
4-1. 沿線地域の将来像	6
4-2. まちづくりの基本的な方針	8
4-3. まちづくり構想	9
5. 今後の取り組み	11
参考資料	
参考資料-1 まちづくり懇談会規約	12
参考資料-2 まちづくり懇談会の検討経過	13

## 1. 構想策定の目的

現在、枚方市では、まちの分断要素となっている京阪本線について、大阪府、寝屋川市、京阪電気鉄道株式会社とともに、連続立体交差事業の調査・検討を進めています。

枚方公園駅～香里園駅を中心とした京阪沿線は、郊外住宅地として京阪各駅を中心に発展してきていますが、鉄道が地上を通っているため、開かずの踏切が多く、交通渋滞や踏切事故発生への懸念など日常生活において多くの課題を有しています。

この構想は、これらの課題を解決し、沿線地域において、市民と共に安全で住みやすく魅力的なまちづくりを進めていくことを目的に策定しています。

なお、この構想は、沿線のコミュニティ協議会の協力を得て設置した「京阪沿線まちづくり懇談会」（以下、「懇談会」という。）での意見や、平成17年度にこの沿線地域の居住者を対象に実施した「光善寺駅・枚方公園駅周辺のまちづくりに関する住民アンケート調査\*」（以下、「アンケート」という。）結果を踏まえ、とりまとめたものです。

\*京阪枚方駅～香里園駅間の市内在住（15歳以上）から1,500人を無作為抽出し、郵送配布・郵送回収（実施期間：平成18年1月23日（月）～2月6日（月））により、766票（回収率：51.1%）の回収がありました。

### ■構想検討の対象エリア図



## 2. 地域の概況

本市の歴史は、旧石器時代・縄文時代に遡るといわれていますが、大規模な集落が営まれるようになったのは、当地を支配した豪族の政治・経済力を表す万年寺山古墳や禁野車塚古墳等があることから弥生時代中期以降とされています。

その後も、東高野街道が南北に縦貫し、江戸時代に入ると全国的に宿駅制度が整備され、東海道の五十六次目の宿場町として、岡新町・岡・三矢・泥町の4ヶ村が「枚方宿」に指定され、宿場町、街道筋のまちとして発展しました。

「枚方宿」は、京伏見と大坂八軒家の間を往復していた三十石船の中継の船着場で、三十石船の船客に酒肴を売った「くらわんか舟」が枚方の名物となり、淀川を上下する過書船の中継港でもある枚方は京・大坂間の交通の要衝となりました。

明治時代に宿場制度は廃止され、三十石船が蒸気船に変わる頃、警察署、裁判所、郡役所などが設置され、北河内の行政の中心地としての役割を担ってきました。

その後、明治43年に京阪電車が開通し、大阪と京都の両方面が鉄道で結ばれ便利になったことから徐々に市街化が進むとともに、京阪電車が開通される際に香里園駅近くに建設された郡遊園で開催された第1回菊人形が、大正元年に現在の「ひらかたパーク」に場所を移し開催されるようになり、多くの来園者で賑わってきました。しかし、長年の間親しまれた菊人形については、職人の不足などにより、惜しまれながらも、平成17年12月の開催で最後となりました。

また、古くから街道が縦貫していたことから、主要な国道や府道などの幹線道路が本市内を通過しています。自動車交通の増加などによりバイパスなども含め道路ネットワークの整備が進められ、特に、本構想の検討地域では、国道1号や国道170号（大阪外環状線）、主要地方道京都守口線（一部区間は国道170号と共用）、主要地方道八尾枚方線などの主要な幹線道路が集中していることから、これら地域の骨格を形成する道路を中心に幹線道路網の整備が進められてきました。

本市が都市として急激な発展をみたのは、昭和30年代の高度成長期に入ってからで、大阪市などの就業地に近く、便利であったことから大都市への人口集中などに伴いベッドタウンとして急速な宅地開発が進みました。

本構想の検討地域である枚方公園駅～香里園駅の沿線地域も、本市において最も大阪の都心に近く、便利であることから、みるみるうちに市街化が進み、現在も、残された未利用地や工場などの転出跡地においてマンションなどの建設が続いています。



このように現在も市街化が進む本構想の検討地域では、京阪本線や併走する府道八尾枚方線を境として、地形的に“東側”と“西側”に分かれ、それぞれ特色のある市街地が形成されています。

東側の地域では、丘陵地に閑静な住宅地や各種の学校が立地するとともに、その後背地には、昭和 30 年代に日本住宅公団により開発された「香里団地」が広がり、現在、リニューアル工事が進められています。また、未利用地などにおいてマンションなどの建設が続いています。



西側の地域では、「枚方宿」など街道沿いのまちや旧集落などとともに、昭和 40 年代以降、駅を中心として低層戸建て住宅やマンションなどの建設が進み、一部の地域では密集市街地が形成されました。また、近年、淀川のスーパー堤防事業に伴い中高層住宅地が建設されるなど、駅から少し離れた後背地においてもマンションなどの住宅の建設が続いています。

また、本構想の検討地域に位置する枚方公園駅周辺には、「枚方宿」をはじめ、ひらかたパーク、淀川河川公園など、多くの観光・レクリエーション客が訪れる資源があります。



「枚方宿」では、「市立枚方宿鍵屋資料館」として整備された「鍵屋」をはじめ、歴史的な景観の保全やまちなみの形成に取り組まれるとともに、「くらわんか五六市（月 1 回）」や「枚方宿街道菊花祭」などが市民の手を中心に開催されるなど、賑わいづくりへの取り組みが進められています。しかし、郊外への大規模商業施設の進出や長年にわたり多くの人々に親しまれている「ひらかたパーク」への電車による来場者の減少などにより、駅周辺の賑わいが失われつつあります。



光善寺駅周辺には、「光善寺」や「蹉陀神社」などの社寺をはじめ、春には桜の景色が美しい「楽寿荘」があり、駅前には店舗が軒を連ねています





### 3. まちづくりの課題

懇談会での意見やアンケートをもとに、まちづくりの課題を整理すると次のようになります。

#### ■保全や改善が求められること

##### ■鉄道に関する意見

###### <現状の問題点>

- ・光善寺駅は駅舎が曲線区間にあり、危険である。
- ・踏切での安全性確保、交通渋滞解消、待ち時間解消などが必要である。
- ・鉄道により地域が分断されている。

###### <鉄道が高架になった場合>

- ・地域に不足している公共施設などの整備が必要である。
- ・現状の商店街の位置などを考慮して改札などの配置を行う必要がある。

##### ■交通環境改善に関する意見

###### <自動車>

- ・光善寺駅には、駅前広場や停車スペースがなく、交通結節機能が不足している。
- ・不法駐車が多いところでは、路上駐車対策が必要である。
- ・光善寺駅の近くに駐車場が少ない。
- ・歴史街道や狭い道路への通過交通排除対策が必要である。

###### <自転車>

- ・枚方公園駅では踏切があり西側地域からの駐輪場利用が不便である
- ・光善寺駅には、駅近くに駐輪場が無い。

###### <歩行者>

- ・光善寺駅前や商店街に放置自転車がも多く、歩行の障害となっている。
- ・交通量が多い八尾枚方線や中振新香里線などは、通学路となっているが歩道が狭く、交通環境の改善が必要である。
- ・大きな交差点が多く、歩行者の安全な横断対策が必要である。

###### <バス>

- ・公共交通不便地でのバスサービスの充実が必要である。

##### ■商店街などの賑わいづくりに関する意見

- ・高齢者など誰もが便利に暮らせるよう商店街の活性化が必要である。
- ・安全で快適に通行できる商店街づくりが必要である。

##### ■住環境に関する意見

- ・緑が多く、良好な環境の香里団地は、住環境の保全が必要である。
- ・道路が狭いなど、防災上危険な地区は住環境の改善が必要である。

#### ■まちづくりの課題

1. 踏切の除却
2. 地域分断の解消
3. 安全・安心な乗降の確保
4. 安全な交通環境の形成
5. 地域に必要な施設の充実
6. 駐輪場利用の利便性向上
7. 交差点等での安全性の向上
8. 駅周辺交通機能の充実
9. 不法駐車対策の強化
10. 駅近くでの駐車場の確保
11. 駅近くでの駐輪場の確保
12. 交通環境の改善
13. 通過交通の排除
14. バスサービスの充実
15. 住環境の改善
16. 良好な住環境の保全
17. 地域の活性化
18. 商業の活性化



# まちづくりの課題図

2. 地域分断の解消

■ ■ ■ ■ 鉄道敷

5. 地域に必要な施設の充実

7. 交差点等での安全性の向上

● 交差点

9. 不法駐車対策の強化

\* 170号線、出口、伊加賀西町、  
緑町、緑町沿道

12. 交通環境の改善

—— 道路敷  
- - - 都市計画道路

10. 駅近くでの駐車場の確保

11. 駅近くでの駐輪場の確保

4. 安全な交通環境の形成



3. 安全・安心な乗降の確保

駅舎が曲線区間にある  
(光善寺駅)



14. バスサービスの充実

15. 住環境の改善

18. 商業の活性化

8. 駅周辺交通機能の充実

6. 駐輪場利用の利便性向上

13. 通過交通の排除



17. 地域の活性化

1. 踏切の除却 (踏切横断の安全性を確保、踏切での待ち時間を解消等)

● 踏切の位置



凡 例	
—	市境界
—	京阪本線
—	都市計画道路
—	歴史街道
○	学校
○	公民館
○	レクリエーション施設
○	駐輪場
●	踏 切

1:3000

16. 良好な住環境の保全



## 4. まちづくり構想

### 4-1. 沿線地域の将来像

まちづくりの課題を踏まえ、枚方公園駅～香里園駅を中心とした京阪沿線の将来として、次のような姿が求められています。

#### 《沿線全体》

人と地域がつながり安心して快適に暮らせると共に、日常生活に便利でまちに活気があるまちづくりを目指します。

#### ＜枚方公園駅周辺＞

歴史資源、自然資源、アミューズメント施設などの観光資源を有効に活用し、過去と未来をつなぐ都市アメニティあふれる広域観光拠点の形成を目指します

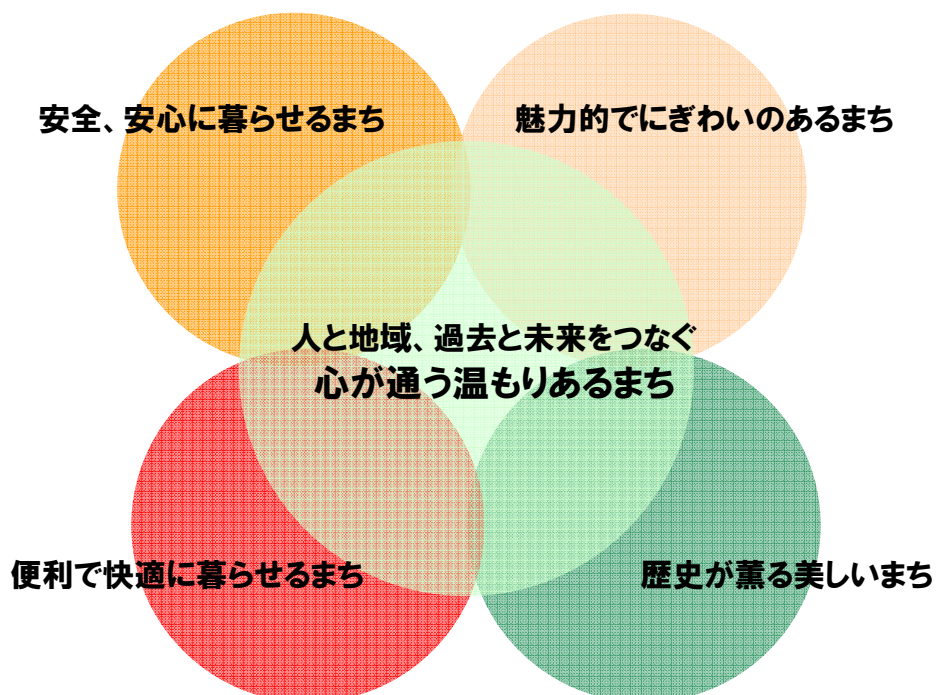
#### ＜光善寺駅周辺＞

日常生活を支える商業施設や社会教育、文化、福祉施設を機能的に配置し、安全で生活利便性の高い地区の形成を目指します。

#### ＜香里園駅周辺＞

寝屋川市との連携を図りつつ、ゆとりある良質な住宅地を保全するとともに、快適な生活環境の形成を目指します。

これら求められている将来の姿をもとに、沿線地域の将来像を「人と地域、過去と未来をつなぐ 心が通う温もりのあるまち」とし、次の4つの柱を中心にまちづくりを進めていきます。





### ① 安全、安心に暮らせるまち

踏切や交差点、狭い歩道での安全性が懸念されています。また、さらに進む高齢社会に向けて、高齢者など誰もが安心して暮らせるまちづくりが望まれています。

鉄道の立体交差化と併せた道路整備などにより適切な道路のネットワークを形成し、安全な歩行者空間の確保に努めるなど安全に暮らせるまちづくりを進めます。

また、豊かなコミュニティの育成を図り、高齢者など誰もが地域で安心して暮らすことができる環境づくりを推進していきます。

### ② 魅力的でにぎわいのあるまち

駅前商店街の活性化とともに旧京街道などの歴史資源、淀川河川公園などの自然資源、アミューズメント施設などの観光資源の集積を有効に活用した、魅力的でにぎわいのあるまちづくりが望まれています。

鉄道の立体交差化に併せて文化的なイベントなどが開催できる空間の創出や魅力ある商店街づくりを推進するとともに、地域の歴史資源や自然資源、観光資源を活かし、そのネットワーク強化や市民（組織）によるイベント等のまちづくり活動により集客性の向上を図るなど、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

### ③ 便利で快適に暮らせるまち

日常生活において支障となっている踏切の除却や駅周辺での交通結節機能の強化、便利で快適な商店街づくりなどが望まれています。

鉄道の立体交差化による踏切の除却、地域分断の解消とともに、鉄道の立体交差化と併せた駅前での交通広場の整備や、駐車場、駐輪場など地域に不足する施設を高架下空間の有効活用などにより整備し、便利で快適に暮らせるまちづくりを推進していきます。

### ④ 歴史が薫る美しいまち

枚方宿のまちなみや社寺など歴史資源を次代につなげるとともに、緑豊かで良好な環境の保全が望まれています。

これら地域の歴史資源を大切にし、次代に継承できるようにしていくとともに、美しいまちなみの保全や創出を図るなど、歴史が薫る美しいまちづくりを推進していきます。

## 4-2. まちづくりの方針

まちづくりの課題を踏まえるとともに、沿線地域の将来像を実現していくためのまちづくりの方針を整理すると次のようになります。

### 【沿線地域の将来像】

人と地域、過去と未来をつなぐ 心が通う温もりのあるまち
① 安全、安心に暮らせるまち
② 魅力的でにぎわいのあるまち
③ 便利で快適に暮らせるまち
④ 歴史が薫る美しいまち

### 【まちづくりの方針】

まちづくりの方針	該当する沿線地域の将来像
鉄道の立体交差化により踏切の問題や地域分断を解消していく。	①、③
現状の商店街や改札口などを配慮し、高齢者など誰もが安心して利用できる駅としていく。	①、③
鉄道の立体交差化と併せて適切な道路ネットワークを形成し、安全な交通環境を確保していく。	①
タクシーやバスの利用も視野に入れつつ、光善寺駅周辺交通結節機能を充実していく。	①、③
鉄道の立体交差化により、枚方公園駅前広場に人が集える空間などを創出していく。	②
住環境の保全、住環境の改善・防災機能の向上など、行政と地域が連携し、取り組みを推進していく。	①、④
鉄道の立体交差化と併せ整備される側道などを活かし、歴史街道など安全な歩行者空間を確保していく。	①、④
高架下空間の活用なども視野に入れ、地域に不足する施設を整備していく。	③
既存施設や高架下空間の活用を視野に入れ、より便利な駐車場、駐輪場を整備していく。	③
高齢者など誰もが便利に、安心して買い物ができる商店街づくりを進めていく。	②、③
地域の観光資源ネットワークの強化とともに、イベント等のまちづくり活動などをさらに活発化していく。	②、④
交差点の安全対策、不法駐車対策、バスサービスの充実など、行政と地域が連携し、取り組みを推進していく。	①、③



### 4-3. まちづくり構想

まちづくりの方針にしたがい、沿線地域の将来像を実現していくための施策を整理すると次のようになります。

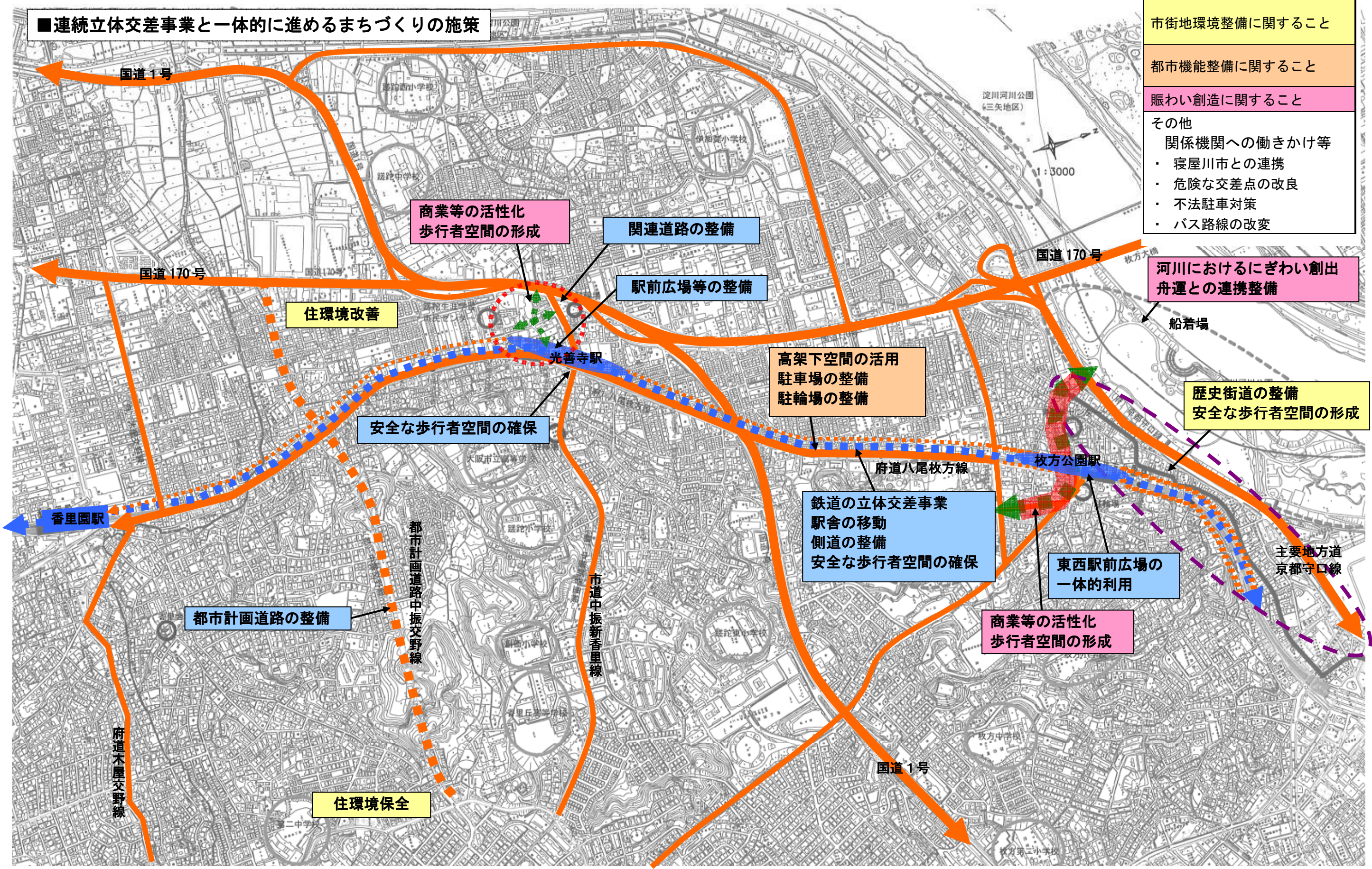
#### ■まちづくりの方針とまちづくりの施策

まちづくりの方針	まちづくりの施策	
鉄道の立体交差化により踏切の問題や地域分断を解消していく。	<b>鉄道の立体交差事業</b> <b>駅舎の移動</b> <b>側道の整備</b> <b>都市計画道路の整備</b> <b>関連道路の整備</b> <b>安全な歩行者空間の確保</b>	都市基盤整備
現状の商店街や改札口などを配慮し、高齢者など誰もが安心して利用できる駅としていく。		
鉄道の立体交差化と併せて適切な道路ネットワークを形成し、安全な交通環境を確保していく。		
タクシーやバスの利用も視野に入れつつ、光善寺駅周辺の交通結節機能を充実していく。		
鉄道の立体交差化により、枚方公園駅前広場に人が集える空間などを創出していく。		
住環境の保全、住環境の改善・防災機能の向上など、行政と地域が連携し、取り組みを推進していく。	<b>住環境保全</b> <b>住環境改善</b>	市街地環境整備
鉄道の立体交差化と併せ整備される側道などを活かし、歴史街道など安全な歩行者空間を確保していく。	<b>歴史街道の整備</b> <b>安全な歩行者空間の形成</b>	
高架下空間の活用なども視野に入れ、地域に不足する施設を整備していく。	<b>高架下空間の活用</b> <b>駐車場の整備</b> <b>駐輪場の整備</b>	都市機能整備
既存施設や高架下空間の活用を視野に入れ、より便利な駐車場、駐輪場を整備していく。		
高齢者など誰もが便利に、安心して買い物ができる商店街づくりを進めていく。	<b>商業等の活性化</b> <b>歩行者空間の形成</b> <b>河川におけるにぎわい創出</b> <b>舟運との連携整備</b>	賑わい創造
地域の観光資源ネットワークの強化とともに、イベント等のまちづくり活動などをさらに活発化していく。		
交差点の安全対策、不法駐車対策、バスサービスの充実など、行政と地域が連携し、取り組みを推進していく。	<b>関係機関への働きかけ等</b>	その他



■連続立体交差事業と一体的に進めるまちづくりの施策

まちづくりの施策
都市基盤に関すること
市街地環境整備に関すること
都市機能整備に関すること
賑わい創造に関すること
その他
関係機関への働きかけ等
・ 寝屋川市との連携
・ 危険な交差点の改良
・ 不法駐車対策
・ バス路線の改変



商業等の活性化  
歩行者空間の形成

関連道路の整備

駅前広場等の整備

住環境改善

高架下空間の活用  
駐車場の整備  
駐輪場の整備

安全な歩行者空間の確保

河川におけるにぎわい創出  
舟運との連携整備

歴史街道の整備  
安全な歩行者空間の形成

鉄道の立体交差事業  
駅舎の移動  
側道の整備  
安全な歩行者空間の確保

東西駅前広場の  
一体的利用

商業等の活性化  
歩行者空間の形成

都市計画道路の整備

住環境保全



## 5. 今後の取り組み

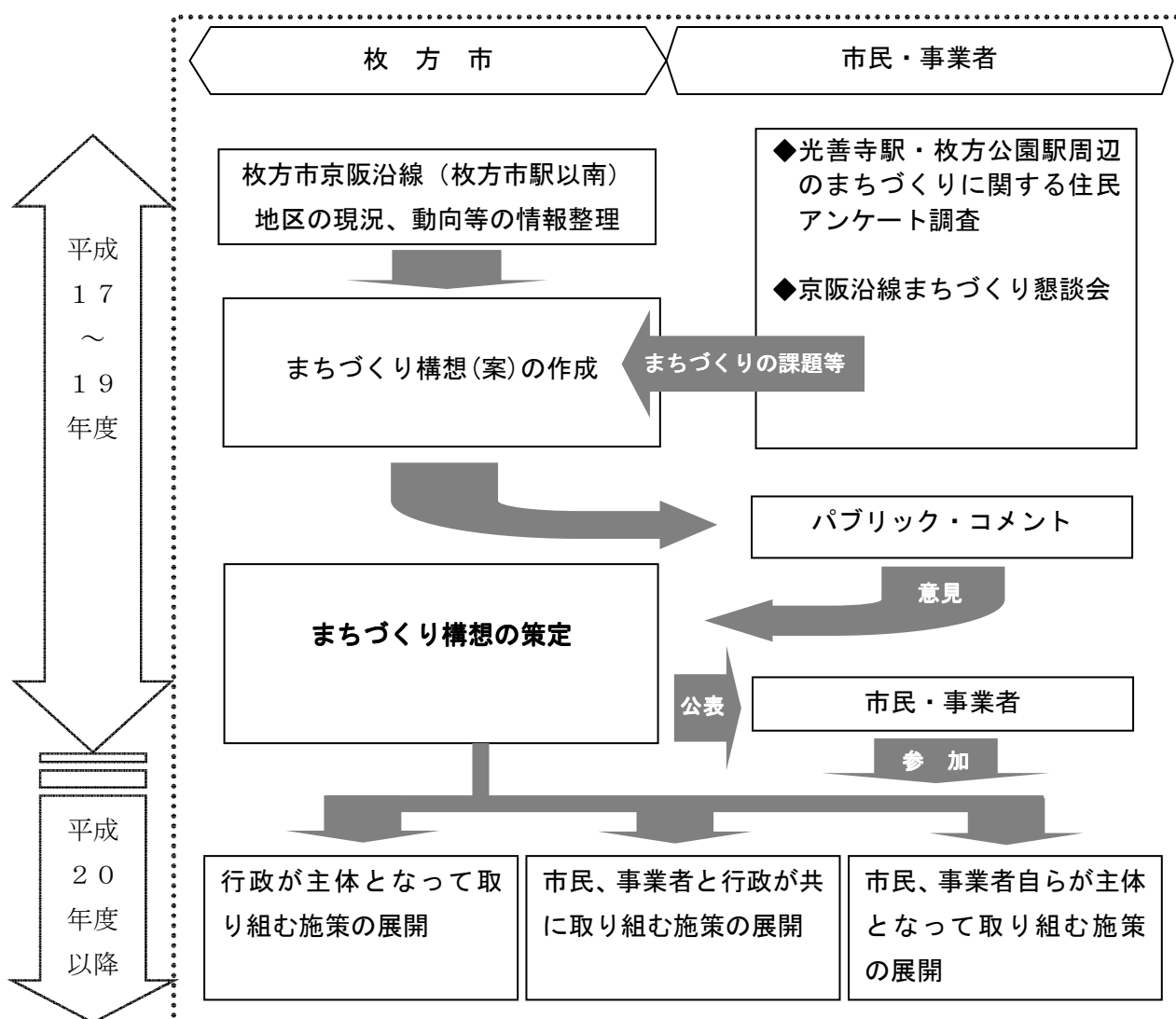
まちづくり構想を具体化していくためには、行政だけでなく、今後さらに多くの市民や事業者などと共にまちづくりの推進を図ります。

この構想をもとに、京阪本線連続立体交差事業の具体化に向けた検討をさらに進めるとともに、今後も関係者と協議を重ねつつ、

- ・行政が主体となって取り組む施策
- ・市民、事業者と行政が共に取り組む施策
- ・市民、事業者自らが主体となって取り組む施策

など、この構想の具体化に向けた施策等の検討を進めていきます。

### ■今後の取り組みの方向



# 参考資料

## 参考資料－1 まちづくり懇談会規約

(名称)

第1条 本会は、京阪沿線まちづくり懇談会（以下「懇談会」という。）と称する。

(目的)

第2条 懇談会は、枚方公園駅から香里園駅間における京阪本線連続立体交差化に伴い、沿線の校区コミュニティ協議会と枚方市が、当該地域における安全で住みやすく魅力的なまちづくりについて、意見交換及び研究等を行うことを目的とする。

(組織)

第3条 懇談会は、次に掲げる協議会の代表者及び枚方市で構成する。

- (1)枚方校区コミュニティ協議会
- (2)伊加賀校区コミュニティ協議会
- (3)蹉跎東校区コミュニティ協議会
- (4)蹉跎西校区コミュニティ協議会
- (5)蹉跎校区コミュニティ協議会
- (6)香里校区コミュニティ協議会

(会議)

第4条 会議は必要に応じて開催し、その招集手続きは枚方市において行う。

(事務局)

第5条 懇談会の事務局は、枚方市都市整備部まちづくり推進課内に置く。

(附則)

懇談会の会則は平成19年8月14日より実施する。

(附則)

懇談会の会則は平成19年10月3日より実施する。



## 参考資料－２ まちづくり懇談会の検討経過

	開催日時・場所	検討内容
第1回懇談会	2007年10月3日(水) 午後6時～8時 枚方市民会館集会室	・京阪沿線のまちづくりの課題の検討 *2グループに分かれ、ワークショップ方式により 検討
第2回懇談会	2007年11月7日(水) 午後6時～8時 枚方市民会館集会室	・まちづくりの課題の確認とまちづくりの方針 の検討 *2グループに分かれ、ワークショップ方式により 検討
第3回懇談会	2007年12月6日(木) 午後6時～8時 枚方市民会館集会室	・まちづくりの方針の確認とまちづくりのコン セプト、キャッチフレーズ等の検討